

障がい者 × ファッション

コンプレックスが役に立つなんて!

「SNSにこのメッセージをいただいた時は、おもわず笑っちゃいました」
こう話すのは社会福祉法人ライフサポート協会「らふら」の米田麻希さん。
米田さんが働くセレクトショップ「らふら」は、授産商品の製作・販売所と地域の交流スペースとなっている。

先日、ユニクロ協力のもと、ズボンのハギレで作ったミニトートバッグが「材料費ほぼ0円商品」と話題になり、このようなメッセージが届いた。



ずっと居たくなる店内

地域の声

複数の福祉施設を運営するライフサポート協会には、地域のさまざまな声が届く。
「らふら」では、その中から「子育て世代の孤立」という課題を拾いあげた。

「育児ノイローゼ」という言葉があるほど育児は大変なものだ。さらに最近は、働き方や家族の形の多様化もあり、子育てをする親に頼る相手がいないという「孤立化」も起きている。

その課題に立ち向かうべく、「らふら」では、子育て世代向けのアイテムを集めることにした。そして、交流スペースを併設したのだ。

転機は夢みたいなきっかけ

お店の経営、利用者の生活、地域の課題など、日々たくさんあることを考える中で、米田さんは洋服店でのアルバイトを思い出す。

当時、ズボンの裾上げで廃棄するハギレがもったいないと思っていた。もし今そのハギレが使えるとしたら……
資源を再利用できるうえに、安価な材料による利益アップで工賃（給与）もアップできる。さらに、良いアイテムが作れたら「らふら」の交流スペースがにぎわう。

そんな夢みたいなきっかけは、2年

もかからず実現した。

トートバッグの完成

ユニクロを経営する(株)ファーストリテイリングに連絡したところ両者の想いは合致。ユニクロは既に海外で、ハギレを使ったプロジェクトを展開していた。

ユニクロの協力を得てからはトントン拍子に事は進む。

材料の生地（ハギレ）をユニクロ、ファスナーをYKK(株)、ミシンをブラザー販売(株)から提供を受けた。さらに、大阪モード学園の学生からデザインをつのり、地域の子育て世代や製作者となる障がい者の方の意見を取り入れ、トートバッグが完成した。

たった1つのきっかけが、企業、学校、地域住民を巻き込み、形となった。製作する利用者も好きな手芸で自分らしい働き方ができている。



材料費ほぼ0円 ミニトートバッグ

次のステップへ

今、米田さんのものには取材や相談の依頼が多数届いている。先日長崎から来訪があった。このプロジェクトの反響が広がりをみせているのだ。米田さんの冒険は次のステップへと進んでいる。



ただ今、製作中!

授産商品とは

障がいのある人が、生活能力の維持・向上のための訓練を行う中で製作した製品が授産商品と呼ばれる。授産商品は、障がいのある人が工賃（給与）を得たり、企業への就労をめざしたりする活動の一環で製作される。障がいのある人が自立した生活や社会参加を目指す場でもある。

ライフサポート協会では

このように障がいのある人が社会の中で生活するための支援を始め、高齢者の暮らしを支える事業や施設の運営、相談窓口を開いている。

「すべての人が、その人らしく、支えあって暮らしていける人権のまち」をめざして活動をしている。

福祉